

# 未来志創

## よっしゃ！顔晴ろう！

2日間の中期考査、お疲れ様でした。最近は気温の変化も激しいからか、体調を崩している人が多くなっている気がします。やることは「すぐに」やって、睡眠時間をしっかり確保して、体調管理に努めてくださいね。

### 自分にはどんな仕事合っているのかわかりません

インターネットで買い物をする人が増えている。

店頭で実物を見なければ怖くて買えないという人もまだまだ多数派だろうが、欲しい商品が「アマゾン (Amazon)」や「楽天」など信頼できるサイトにあって、それが有名メーカーのものであれば、ほぼ満足する買い物ができるのではないだろうか。最近、価格比較をしてくれるサイトを見つけた。欲しいものを入力すると、複数の店の販売価格が安い順で表示されるのだ。同じ商品ならば、一番安く売っているお店で買いたいのが消費者心理である。

すなわち、「最小の費用で最高に価値ある商品を手に入れる」ということである。この消費者心理が、教育の現場に蔓延しているようだ。先日、大学の先生からこんな話を聞いた。

「4年制大学なので卒業に必要な単位数は最低 130 単位なんですが、多くの日本の学生がぎりぎりの 130 単位を取得して卒業します。でも、留学生の多くは少しでも多く学ぼうとするので優に 150 単位は取っています。学費は同じですから」

朝日新聞の「仕事力」というコラムに似たような話が載っていた。哲学者で武道家の内田樹さんの記事だ。

「医学部の先生から聞いた話ですが、授業の後、質問に来た学生がいて、講義の内容について聞かれるのかと思ったら、『これ国家試験に出ますか？』と聞いてきた。こういう学生は『最低の学習努力で最高に価値ある学位を得る』ということを期待しているのです」

…すなわち、「最小限の労働と引き換えに最も高い報酬を期待している」とか「最も少ない努力で最高の評価を受けるような仕事がしたいと思っている」というのである。

就職活動をしている学生達はこれを「自分に合った仕事に就きたい」という言葉で表現する。「適職」というものだ。

つまり、今自分に 100 の能力があるとすると、100 の能力のできる仕事を彼らは「適職」と呼び、「自分は人と話すのが苦手なので絶対営業職は無理。事務職じゃなきゃだめ」などと決め込んで、自分の無限の可能性に蓋をしてしまう。

僕は今、短大で非常勤講師をしているが、学生たちがよく言うのが「**自分にはどんな仕事合っているのかわかりません**」である。

**そんなことは当たり前である**。人生経験などほとんどなく、しかも職業人としての経験はゼロに等しいのに、「自分に合った仕事を探す」なんて慢心極まりない。

**職業とは、探すものではなく誰かに選ばれて就くもの**だ。だから「天職」のことを「**コーリング**」という。「呼ばれる」という意味である。

たとえば、「教師になりたい」「出版関係の仕事がしたい」などと希望していても、選ばれなければその職に就けないし、独立して起業しても、お客様から選ばれなければ、成功しない。

…**若いときは、自分にどんな可能性が秘められているか、自分もわからないし、先生も親もわからない**。だから 100 の能力しかなくても **150 の力を発揮しないと出来そうにない、苦手なことや困難なことに、若いときは挑戦していくべき**なのだ。

そうやって**今の環境の中で最大限の努力をしている人**が最終的に選ばれる。

『いま伝えたい！子どもの心を揺るがす“すごい人たち”』(水谷もりひと)より

このあとも、合唱コンクールや金沢校外学習、後期の生徒会活動、それに伴う後期の新しい学級組織決め、テキスト学習等様々なことがあります。「自分にはできない」「どうせ無理」などという気持ちから一歩踏み出し、いろいろなことに挑戦してみてはいかがでしょうか。「自分の可能性の大きさ」に気付くことができるかもしれませんよ。